



プロジェクトで建てられた学校に通う児童。成果を受けて、州政府は「ManaBUモデル」を正式に採用し、今後56校の学校を建設する予定だ

「ManaBU学校」の一つであるガセラガチレ学校は、首都アディスアベバから南方約145キロに位置するオロミア州アルシ県スレ都アレルガセラ村に06年に建設されました。村は3つ

態で維持できるよう心掛けています。

そこでJICAは2003年から、住民参加型基礎教育改善プロジェクト（通称「ManaBUプロジェクト」）を実施しています。これは、特に就学率の低い地方農村部で小学校の建設から運営までを地域住民が行政官とともに、そのプロセスから得られた成果をモデルとしてほかの地域でも展開し、すべての人に質の高い教育機会の提供を目指すものです。プロジェクトの特徴は、ニーズの把握から運営までの各段階に地域住民が参加すること。郡の教育行政担当官の支援のもとで住民が建設管理委員会を形成し、その中でサイト選定、校舎設計、仕様計画、予算作成、住民と地方政府の費用負担額などを決定していきます。プロジェクトでは、行政側には現場の現状を踏まえた行政サービスの提供能力の強化を、住民側にはオーナーシップの醸成を図ることで、地域の教育環境をより良い状態で維持できるよう心掛けています。

「manabu」は、エチオピアの主要言語の一つ、オロモ語で「コミュニティの学び舎」を意味します。地域や性別に関係なく、一人でも多くの児童が学校に通える環境づくりには、地域住民「コミュニティ」の力が重要なのです。

こうして開校された学校では、男女児童の就学比率が改善されるとともに、退学率の大幅な減少が見られました。また、へき地でも行政と地元住民が一体となり、学校施設基準に準じた耐久性の高い、統一された施設の建設が可能になりました。さらに、建設コスト削減のほか、地域住民のオーナーシップも醸成され、継続的に学校の保守・営繕・運営へ参加しています。

総額約230万円を負担しましたが、それ以外の床材となる石材、砂、木材、壁材の材料のわらは、水など現地で入手可能な資材の確保と作業は住民が行いました。郡の教育担当部局は、適切な仕様の校舎にするために、施工管理と技術指導を担当。建設作業には児童の父兄を含む約1200人も地元住民が参加しました。

実践! ★★★★★ 人間の安全保障

住民との協働で 農村の就学率向上を

初等教育の就学率が伸び悩み、地域間・男女間格差の是正と教育の質の向上が課題となるエチオピア農村部。JICAは「住民参加型基礎教育改善プロジェクト」を実施し、人間の安全保障の考えのもと、すべての人々に質の高い教育機会が浸透するよう支援を続けている。

農

村人口が全人口の8割を超えるエチオピアの農村部では、食料の安定確保に十分な状況がありません。こうした中、能力開発の基礎となる教育分野の改善に重点を置くエチオピア政府は、初等教育の就学率向上に努めています。特に農村部では就学児童数が増加する一方、施設・教員不足などから就学率が伸び悩み、地域間・男女間の格差は正や教育の質の向上が大きな課題となっています。

の集落からなる人口約22000人の農村です。1〜6学年を対象とする小学校がありました。各集落の児童は5〜8キロの距離を歩いて通う必要がありました。また、集落と学校の間には雨期に濁流となる川が流れ、さらには山を越えて通学しなければならず、年少児童や女子児童が毎日通学するのは大変なことでした。

こうした状況を踏まえ、各集落の中間に教室棟2棟とトイレ棟1棟の初等学級（1〜2年生対象）の校舎が村人の発案で建設されることになりました。建設に当たっては、プロジェクトが屋根材やセメントなど建設資材の購入費、